

アサクラサンショウ園への雄株導入は結実向上に有効

アサクラサンショウの結実には雄株の受粉を必要とするが、栽培現場では、周辺に自生する雄株から受粉するのみであり、結実が不安定である(写真1)。そこで、園内に雄株を栽植して結実を検討した結果、雄株に近いほど結実率は高く、アサクラサンショウ園への雄株導入は結実向上に有効であった。

内 容

香美町八原の現地アサクラサンショウ園(8年生)に、北部農技周辺自生株から選抜、接ぎ木を行った雄株系統(5年生)を供試し、園の中央に2株地植えした(2015年3月15日)(写真2)。設置した雄株から2.5m、5m、7.5m、10m、12.5mの距離にある5樹(各樹5果房)の結実率を5月22日に調査した。対照区として、雄株導入園に隣接するアサクラサンショウ園(雄株からの距離が約50m)5樹(各樹5果房)の結実率を調査した。

その結果、雄株導入園における結実率は、雄株に近いほど良好で、雄株との距離5m以内では70

%を超えた。7.5m以上離れると、対照区の雄株を設置しなかった園との有意差はなかった。一方、対照区の園の結実率は50%以下となり(表)、アサクラサンショウの結実安定化に、受粉用雄株の設置が有効であることが明らかになった。

普及上の注意事項

適正な雄株の混植率は、10%程度と考えられる。雄株の花は高級食材「花ザンショウ」としての利用も可能である。

真野 隆司(農産園芸部)

(問い合わせ先 電話:0790-47-2424)



写真1 アサクラサンショウの通常の果房(右)と結実不良の果房(左)



写真2 栽植した雄株系統(左)とその花(右)

表 雄株からの距離がアサクラサンショウの結実に及ぼす影響(2015)

雄株からの距離(m)	結実率 ^{z)} (%)
2.5	80.2 a ^{y)}
5.0	71.5 ab
7.5	61.8 abc
10.0	54.3 bc
12.5	58.0 bc
隣接園(距離約50m)	44.6 c

z) 各距離にある5樹の平均結実率(5果房/樹)

y) アルファベットの異符号間は5%水準で有意(Arcsin-Radian変換後Tukey法で検定)